

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 補欠のピアノを よんで、そのときの千夏の心情を1つえらびましょう。

コンクールの 伴奏者に、親友の 里穂が えらばれた。自分も 練習を 重ねてきた 千夏は、くやしさを かくして「おめでとう」と言った。けれど 家に 帰り、だれも いない 部屋で 鍵盤に ふれたとき、こみ上げる ものを おさえきれなかった。

1 里穂を心から祝う晴れやかな気持ち。

2 表では言えなかったくやしさがあふれてきた。

3 ピアノをやめようという決意。

4 里穂への怒りしかない気持ち。

2 祖父の時計を よんで、拓也がきっぱり答えたのはなぜですか。1つえらびましょう。

亡くなった 祖父の 古い 時計を、修理に 出すか まよっていた 拓也は、店の 人から「まだ 動きますよ」と言われた。とたんに、時計を のぞきこんでいた 祖父の 横顔が 思い出され、拓也は「なおしてください」ときっぱり 答えた。

1 時計が高く売れると思ったから。

2 祖父との思い出を大切にしたいと感じたから。

3 新しい時計がほしくなったから。

4 店の人にせかされたから。

3 最後のリレーを よんで、そのときの翔の心情を1つえらびましょう。

小学校 最後の 運動会。バトンを わたした 瞬間、翔は つまずいて 転んだ。立ち上がった ときには、もう 順位は 大きく 下がっていた。それでも、ゴールで 待つ なかまの 顔を見た とき、なぜか 胸に あたたかい ものが 広がった。

1 順位が下がり、なかまをうらむ気持ち。

2 転んだ自分をせめ続ける気持ち。

3 仲間とやりきれたことに満たされる気持ち。

4 早くこの場から消えたい気持ち。

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 けんかのあとを よんで、そのときの優の心情を1つえらびましょう。

つまらないことで親友と言い争い、口をきかなくなって三日。ろうかですれちがうたび、優は目をそらしていた。けれど相手が落としたプリントを、気づけば自分がひろっていた。差し出す手が、少しふるえた。

- 1 まだ相手を許せず、にらんでいる。
- 2 仲直りしたい思いと気まずさが入りまじっている。
- 3 相手にまったく関心がない。
- 4 けんかのことを完全に忘れている。

2 海辺の約束を よんで、小指を差し出した莉子の思いを1つえらびましょう。

引っこす前の日、幼なじみの二人はいつもの海辺に立った。かける言葉が見つからず、ただ波の音を聞いていた。やがて陽菜が「手紙、絶対書くから」と言うと、莉子はだまって小指を差し出した。

- 1 約束を交わし、つながりを保ちたいという思い。
- 2 早く別れて帰りたいという思い。
- 3 陽菜の言葉を信じていないという思い。
- 4 手紙をもらいたくないという思い。

3 負けを認めるを よんで、この場面での慎の変化を1つえらびましょう。

将棋でどうしても兄に勝てない慎は、いつも途中で盤をにらんでだまりこんだ。だがその日はちがった。負けをさすると、慎は顔を上げ「今の、どこがよくなかった?」と兄にたずねた。兄は少しおどろいたように笑った。

- 1 負けを受け入れ、次に生かそうとするようになった。
- 2 将棋をやめようと決めた。
- 3 兄を怒らせようとした。
- 4 兄に勝ったことを自まんした。

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 がんばれの声を よんで、『あせと何か』が表すものを1つえらびましょう。

マラソン大会で、後ろから二番目を走る由衣は、何度も歩きたくなった。沿道から「由衣、あと少し!」と母の声が聞こえたとき、下がりかけていた顔が、ふっと上がった。ゴールテープを切った由衣のほおを、あせと何かが伝った。

1 さいごまで走りきった達成感の涙。

2 順位が低いことへの怒り。

3 走るのをやめたいという気持ち。

4 母への不満。

2 捨てられない絵を よんで、美月がもどしたのはなぜですか。1つえらびましょう。

部屋を片づけていた美月は、幼いころにかいた下手な絵を見つけた。ふつうなら捨てるところだが、その絵のうらに母の字で「宝もの」と書いてあるのを見て、美月はそっと元の場所にもどした。

1 絵が上手だと思い直したから。

2 母が大切にしていた気持ちに気づいたから。

3 捨て方がわからなかったから。

4 また明日捨てようと思ったから。

3 後ばいへの言葉を よんで、メモにこめた玲の思いを1つえらびましょう。

部活 最後の日、いつもきびしかった先ばいの玲が、後ばいに一枚のメモをわたした。そこには「よくついてきた。あとはまかせた」とあった。ぶっきらぼうな玲らしくないその言葉に、後ばいたちは胸を熱くした。

1 後ばいの努力を認め、後をたくす思い。

2 後ばいをまだ信用していない思い。

3 部活が早く終わってほしい思い。

4 後ばいと関わりたくない思い。